

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	昨年の評価から理念の変更を行っている。		
2 ○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	実践をもとに入所者の表情や言葉から理念の持つ意味や大切さを知るようにしている。	○	常に念頭において業務を行っていきたい。
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	見学者や入居時には理念に沿った生活を提供していることを説明している。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩時や近隣のお店を利用させて頂いた際に挨拶やお話をしている。	○	ファミリールームがあるため近所の方の「詩吟の会」などに使用して頂こうと計画している。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	福住のまちづくりセンターより、羊ヶ丘展望台の50周年事業にてラベンダーの贈呈を受けている。	○	大きな行事の参加はあるが、会合などの参加はしていないため普段から交流していきたい。
6 ○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	同じ建物内に居宅介護支援事業所があるため情報共有を行っている。	○	地域の方にもノテ福祉会のサービスを利用されている方々が多くいるため、利用日以外で何かできないか検討している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	定例会や総括会議にて改善項目への取り組みや必要性を話し合ってきた。		
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ホームの入居状況・苦情・事故・ひやりはっと・近況報告など行いご意見を頂いている。	○	今後はご家族の参加も呼びかけ参加して頂けるようにしていきたい。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市が開催する研修会へ参加している。事故報告の提出、申請を行う際には助言を頂いている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用している方がおり、後見人と連携している。必要な方には入居時に情報提供を行なっている。	○	多くの職員が理解できるよう資料の配布などを行い知識を習得する。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	研修への参加、日常業務での職員の入居者に対する声かけなど、常に注意を行っている。何が虐待かを意識していくことを全職員で会議などで話し合ってる。	○	研修などを通して、各自がより深い理解が必要である。
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	見学時に生活の様子や介護方針をお伝えしご理解をいただいている、契約時には契約書・重要事項説明書を入居者やご家族と読み合わせ、署名をいただいている。	○	疑問・要望は職員全員で周知し、取り組むようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	管理者が職員から聞いたり、入居者本人からホームへの意見・不満・苦情を聞くようにしている。すぐに反映できるものは実行している。	○	入居者が苦情・不満をいつでも言える雰囲気作りをしていきたい。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	「ごきげんだより」にて毎月の様子や状態・職員の異動など報告している。金銭状況は2ヶ月に1度金銭出納長を発行し、ご家族へは報告している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時などに家族からの意見・苦情を聞くようにしている。外部の苦情相談窓口の紹介も行っている。ご利用者アンケートを実施している。	○	玄関などにご家族の声を聞く「ご意見箱」を設置し来訪時などすぐに声を聞ける物を設置しようと考えている。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議などを通じて、意見や提案は聞くようにしており、管理者からも意識して尋ねるようにしている。	○	各職員のやりたいことや不安・不満は周知できていない。ごきげん福住が目指す入居者の生活を、お互いが理解した上で今後話し合いが必要であると思う。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の状況の変化に応じて、勤務時間の延長や休日出勤・シフト時間の変更を行っている。管理者は極力シフトに入らないようにし、柔軟な対応ができるようにしている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	時間外勤務を最小限にしたり、休憩時間の確保に努めたりするなど、働きやすい職場づくりを目指している。又、資格取得による賃金を段階的に上げるなど行い離職を抑える努力をしている。離職をする場合は最低1ヶ月の期間を設けている。	○	人事考課制度の自己評価を活用し、モチベーションを上げるようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内で幹部養成のための講座を開設している又、他のグループホームへの現場実習・認知症実践者研修・普通救命講習・皮膚トラブルのケア講習などの研修に参加している。	○	研修報告会を行うようにする。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム管理者会議には必ず参加し情報交換を行っている。同じグループ内の事業所とも情報交換している。	○	職員も参加できるように今後取組んでいきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	休憩時間の確保・時間外勤務を最小限にするようにしている。希望休みはシフトに反映するようにしリフレッシュできるよう工夫している。	○	面談の回数など増やし一人一人の不満や不安を聞くようにする。
22 ○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	業務管理シートを各自作成してもらっており、その中で職員個々の業績や努力は褒め称えるようにしている。	○	努力や実績に関しては賃金面でも評価できるようにしている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前にご本人と会い、お話をよく聞く機会を設けています。ご本人の不安なこと、困っていることをよく聞き、入居してからなるべく寄り添う時間を多く設けまして、不安を最小限にするようにしている。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族の必要としているニーズや思いについて時間をかけて聞くようにしている。入居してから安心してご家族が生活していただけるように、要望は可能な限り受け入れるように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談内容に応じてグループホーム以外のサービスについても説明し紹介している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	可能な限り見学をしていただいている。初期段階では、関りを多くしご家族など身近な方に来てもらうなどして、安心感をもってもらうように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	介護する側されるが側という関係にならないよう、入居者の得意なことは積極的にやって頂いたり、教えて頂いたりしている。	○	その時の各入居者の思い・ニーズを感じとることができ、すぐに対応できるようにになりたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	毎月のおたよりや来訪された際など様子の報告をしている。	○	ご家族が意見や要望など職員に言いやすい雰囲気作りを今後も行っていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居者の暴言などは家族にストレートに伝えることはしない。家族の話題の時も良い話を引き出すような関わりを心がけ、家族へ伝えている。	○	お話しをする時は受け止める事を心がけ、良い部分を引き出した会話を行うようにしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	手紙や電話のやりとりは継続している。手紙の際は返事を入居者より確認し代筆でも職員が書いて返送している。	○	思い出の場所など行けたら良いと思っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	気の合う人、合わない人は職員が周知し食事の席など配慮している。合わない方への暴言が聞かれるときは状況を説明し職員が謝罪している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	病院・施設への情報提供など行うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各入居者のペースでやりたいことを決定してもらうように努めている。意思表示が困難な方には、ご家族から情報を収集したり、表情や言動などから把握するように努めている。	○	皆が同じ事をするのが平等と考えるのではなく、各自の思いに応えることが平等という考えをもって対応する。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	今ままで別々にファイルしてあった物をひとつにまとめ1冊を見ることですべての情報がわかるようにしている。	○	センター方式を活用しより詳しい情報をご家族からいただき今後の関わりにつなげていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	「日課表」を作成しアクティビティーの充実がはかれているか、過ごし方は単調なものになっていないか確認している。	○	ただ記入するのではなく今後のアセスメントに活かせるものにしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護支援専門員がまず、このようになれば良い、又はこういう風にはできないのかと、理想像をお話し、そこからご家族やご本人、職員全員が具体的な考え、アイデアを出し合いながら介護計画を作成するようにしています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的な見直しの他、現状の介護計画で対応できない変化が生じた場合には定例会等で職員と、ご家族とは電話、面会時を通して話し合っている。又、ご本人ともその都度話し合いながら、介護計画を作成するようにしている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ひやりはっとにて小さな変化や危険な行為は報告を行っている。毎月、検討表にて全職員から入居者の様子の変化などの報告をうけケアプランに反映している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご家族の要望に応えるため通院の送迎・ご家族との付き添いは行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	月に1回ボランティアの方が生け花教室を開催して下さる。	○	個々のニーズに合わせた趣味など、ボランティアの導入を検討している。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在は利用していない。	○	居宅介護支援事業所と情報共有を行っていきたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に参加してもらい、運営についてご意見を頂いたり、情報交換をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	入居時にご本人及びご家族の希望をお伺いし、以前からのかかりつけ医を希望される場合はそのまま継続するように支援している。		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	入居前よりかかりつけの医師がいる方は継続していただいている。当ホームの協力病院の医師にも報告・相談を行い指示をいただくこともある。		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	看護師を確保している。状態の変化や受診の相談など行っている。		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	主治医と日頃から気軽に情報交換や相談を行える関係を築いている。		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	全入居者、重度化した場合における対応に係る指針について「同意書」をいただいている。		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	看取りをご希望されるご入居者に、可能な限り尊厳と安楽を保ち、安らかな終末を迎えられるよう全人的ケアを提供するための体制を整備している。医療機関との連携を図り、医師の指示により全職員の協働体制のもとで尊厳を支えるケアに努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	身体状況・生活の様子・注意点など介護添書などで伝えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	日誌や記録用紙は実名をださず居室番号での記入を徹底している。プライドを傷つけることのないよう、言葉遣いも注意を促している。	○	申し送りは大きな声で喋らないようにし、決して他の入居者の耳には入らないように注意しています。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	何をすることも入居者に確認をとるようにしている。入居者によって、自己決定の方法も異なるため、その人のレベルに合った方法で決定できるよう工夫している。	○	自己決定の働きかけも入居者の状況により変わってくる、全職員が見極め統一した対応を行えるようにしたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その時の気分・体調を考慮した関りを心がけ、柔軟に対応している。	○	昨日できなくても今日はできるかもしれない。入居者の気分の変化を感じ取りその時の状態に合った生活を提供したい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	外出時は服を着替えたり、化粧をしたりするなどお洒落を楽しむようにしている。	○	基本は訪問理美容であるため。入居者の希望に添った美容室などへ行けるようにしたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備には何名か参加していただいている。職員と一緒に食卓を囲み楽しい雰囲気になるよう心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	おやつや飲み物は入居者の状況に合わせて提供している。食事も各入居者の嗜好に合わせてメニューを入れるようにしている。	○	外出先でのお茶や食事をもう少し増やしていきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	入居者の尿意や排泄パターンにあわせてトイレ誘導を行ったり、トイレでの排尿を促している。オムツの見直しを行い、大きいオムツで長時間でなく小さいオムツで対応できないか確認している。	○	今後もオムツの検討を行っていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者の習慣や気分を大切にしてお風呂を促している。週に2回程度のお風呂である。	○	入居者のニーズや要望に合わせてお風呂の回数を増やしたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	就寝時間も入居者によって異なる。身体状況に応じて日中でも居室で休んで頂いたり、車椅子使用の方も移動する時以外は、椅子やソファで休んで頂くようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	昔からの趣味を継続されている方もいる。外出などの行事の際は、入所者の希望を聞き反映している。	○	新たなアクティビティの取り組みを行い継続しなくても、時々でも一緒にやってもらえるように関りたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族と相談しお金を所持できる方には所持していただいている。その他の方はお金を預らせて頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	散歩を日課としている。本人希望の商品は買い物と一緒に行くようにしている。	○	外出が多くなる入居者が偏ってしまう傾向にある、少しでも多くの個別外出を目指しているが、集団外出が多くなっている現状である。受診の帰りに、寄り道をするなど個別外出機会をつくりたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外出の際は集団ではあるが、行きたいところを確認し行くようにしている。	○	一泊旅行や各自のふるさとを訪問したい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙はやりとりされている。自分で書けない方へは職員が代筆し支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	定期的に来られるご家族が多く、長時間過ごされている。近況報告など行ったり、一緒にお話を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束にあたる事項について確認を行っている。介助方法の変更時はカンファレンスにて、身体拘束にあたらぬか話し合いを行っている。		会議などを利用し職員の意識改善を行う。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員の通用口には施錠はしているが、エレベーターへの出入り口は施錠しておらず、いつでも自由に出入りできるようになっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	居室に伺うときはノックをして入室している。夜間鍵を掛けてしまう方には、巡回時は鍵を開けて安否確認に行くことを事前に説明し了承をいただいている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬や洗剤、刃物は引き出しや扉つきの物入れに保管している。入居者のレベルに応じて、自由に使えるよう工夫している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止にむけたマニュアルを作成し職員に周知している、入居者一人ひとりの状態を常に職員全員で話し合い、確認しながら事故の防止に取り組んでいます。ひやりはつとを記録し、情報共有に努めている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	全職員が救命講習を受講する。(現在半分の職員)	○	今後も普通救命講習の参加は継続する。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防火・防災管理者講習への職員の参加にて職員への災害の意識を高めています。定期的な避難訓練を実施している。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	ご家族には入居者の状態の変化により起こり得る可能性のについて来訪時や電話などで説明をし、サービス提供の了承を得ている。	○	面会が少ないご家族にもお便りや電話などで身体状況を報告し、安全な生活をして頂くために事故のリスクをお話していく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日バイタル測定を実施。必要な方には排便チェックを行っている。異変がある場合は介護の現場で行える対応はすぐに行い、改善がみられない時は早目に治医への受診・ご家族への報告を行っている。	○	少しでも異変を感じたときは管理者へ報告を徹底する。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の情報を看護記録にファイリングし、いつでも確認できるように各フロアーに置いてある。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	日課の散歩や運動を行ったり、水分量や食事の工夫を行っている。必要な方には排便チェック表を作成し確認している。	○	今後も主治医への報告も継続し、内服での調整を行っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	歯磨きは毎食後に必ず行っている。出来る方はご自分で、そうでない方はその人のできる力に応じて支援するようにしている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	入居者一人ひとりの状態や、希望に応じて食事量を変えています。必要な方は記録をしたり、食事量に変化がみられる場合は、報告を行い情報共有している。食事量が減っている方には好物のものを勧めたり、食べやすく栄養のある食物を食べてもらうようにしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	出勤時や介助後・調理前には必ず手洗いをするよう徹底している。排泄介助の場合にはゴム手袋を使用するようにしている。来訪者への手洗いうがいもお願いしている。法人内の感染対策委員会を通じて、医師よりアドバイスをもらっている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	ふきん、包丁、まな板は1日の最後に必ず塩素消毒殺菌し、冷蔵庫は定期的に清掃するようにしている。食材は先入れ先出しを心がけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	表札は掲げていますし、和風の玄関や植木を両側に設置し、やわらかい優しい雰囲気を出している。	○	来訪時にインターホンのみの対応になるため、ご迷惑を掛けてしまうことがある。初めての方にはわかりにくい面もあり工夫が必要である。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	不快な音や光はないように配慮されている、居間や台所・廊下幅も広く過ごしやすくなっている。	○	季節を感じられるお花など置くようにし、ホームを明るくしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食卓やソファ、椅子をそれぞれ配置しており、一人で過ごしたり、気のあう入居者同士が座れるように工夫をしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時には使い慣れた物や好みの物を持ち込んで頂くよう呼びかけている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがなく、換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	空調は24時間換気しており、匂いがこもらないようにしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	トイレや浴室に手すりを設置しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室には表札をつけている。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の外回りは活用できるスペースはなく、ベランダも現在は活用していない。	○	ベランダも避難経路扱いとされており、物を置くことができないため玄関前などに花を植えたりして楽しみたい。

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ○①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ①ほぼ全ての利用者 ○②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ①ほぼ全ての利用者 ○②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ○③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ○①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ①ほぼ全ての利用者 ○②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ○①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ○③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ○②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ○②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ○②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ○②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)